

4

5

6

7

8

9

10

4/29 調査1

5/13 ユンボで穴掘り

5/18 経過観察

5/22-23 保全活動1

6/9 センサーカメラ設置

7/10-11 保全活動2
7/11 調査2

9/18-20 保全活動3
9/19 調査3

西谷後



10年ほど前にはハッチョウトンボのいた西谷後の休耕田

西谷後は、ヤナギ、サワグルミなどの溪畔の潜在植生を作っていくと素敵な景観になるだろう。(横山さん)



2カ所の穴を掘った。



穴を掘って5日後に西谷後にはヤマアカガエル、大明神にはモリアオガエルの卵塊があり、オタマジャクシも多数確認した。

大明神



小さな棚田が広がる大明神

6カ所深さ、大きさの違う穴を掘った。すぐに水が流れ込んだが、生き物のいる様子は確認できなかった。



穴のまわりの畔を整え、木道を設置。



杭を打ち込み、枝を通して土留めをする。



雨に濡れにくいところに細い竹を設置し、ハチの住処作り。

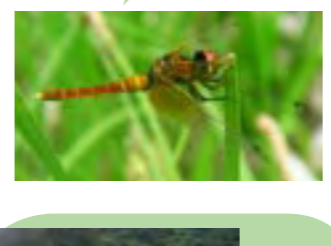


21名参加



観察池のまわりに現れる動物の姿をとらえるため、横山さんのアドバイスでセンサーカメラを設置。以後、週1,2回ペースでデータチェック、場所変更を行った。10月末までに計30回ほどチェック。

大明神で指標昆虫のハッチョウトンボを発見！背の低い草地に生息。



プログラム内で調査を実施。ショウブ、カキツバタなど貴重な植物・昆虫類が見つかった。

・清水の人たちからふるさとを思う気持ちをひしひしと感じた。大明神のショウブの群生には驚いた。人間が手を着けずにいると自然のままになってしまうが、その中にショウブの群生が残るのはすごい。(北野さん)

・生物を育てたり、勝手に集まってくる場(環境)があることはうらやましく思う。この生きものたちの中から、生計に結びつく何かを生み出すことにつながることを発見したい。(横山さん)

・新潟県が持つ「米、酒、スキー」のイメージは全て魚沼地域のもの。外から来た人たちがここに来て良かったとよく言う。生き物について、わからなかったことがわかることは面白い。「また会えた！」という感動がうまれる。(深沢さん)

13名参加



ヨシ、ススキなど乾燥地を好み、背が高くなる草を刈る。イグサなど湿地を好む草が生育しやすい環境を整える。



6名参加



西谷後は前回同様、背の高い草を刈る。大明神には畔に沿って全長100mの木道を設置。



オタマジャクシのいる池とない池の違いが気になった。池はまだ安定していない状態。水草ではなく藻類が生えている。西谷後をトンボを呼び戻すビオトープにしようという話が現実的なものになっている。(深沢さん)

西谷後にはたくさんのルリボシヤンマや、巨大なヒキガエルが。

今後の予定

- 11/14 調査まとめ会議
- 11月中 清水だより3号
- 12/10 経団連申請締切
- 冬 清水集落向け報告会
- 翌3月 報告書作成